



## セッティングガイド

2025.11 Ver.1.1.0



## Logging Foot Setup guide

### 改訂履歴

バージョン	日付	内容
1.1.0.1	2025/11	初版



## 内容

セットアップガイド.....	1
1. はじめに.....	4
1.1. セットアップ プログラムについて .....	4
1.2. セットアップ解除 プログラムについて .....	4
1.3. 使用上のご注意・免責事項 .....	5
1.4. 著作権及び使用許諾条項 .....	5
1.5. 動作環境 .....	5
2. セットアップ .....	6
2.1. GUI 起動してセットアップする .....	6
2.1.1. セットアップファイルを使用 .....	7
2.1.2. マニュアルセットアップを行う .....	10
2.2. 他のプログラムから起動してセットアップする .....	20
2.2.1. 他のプログラムから起動する例 .....	20
2.2.2. リターンコード一覧 .....	21
3. セットアップの解除 .....	22
3.1. GUI 起動してセットアップ解除する .....	22
3.2. 他のプログラムから起動してセットアップを解除する .....	24
3.2.1. 他のプログラムから起動する例 .....	24
3.2.2. リターンコード一覧 .....	24
4. エンドユーザーへの再頒布 .....	25
4.1. エンドユーザー先に配布する手順 .....	25
4.1.1. インストーラー .....	25
4.1.2. アンインストーラー .....	25
4.2. エンドユーザー先に配布が必要なモジュール .....	26
4.2.1. Viewer アプリケーション .....	26
4.2.2. セットアッププログラム .....	26
4.2.3. セットアップ解除プログラム .....	27
4.2.4. クライアントモジュール .....	27
4.3. インストーラーサンプルについて .....	27
4.3.1. <重要>インストーラーサンプルの注意事項 .....	27
4.3.2. インストーラーサンプルの開発環境 .....	28
4.3.3. インストーラーサンプルの使用方法 .....	28



## 1. はじめに

この度は、Logging Foot（読み方：ロギングフット、以下 本ソフトウェアと記述）をダウンロードしていただき誠にありがとうございます。本ソフトウェアをご使用になられる前に本書をお読みになっていただき、ご理解を深めてからご活用いただけると幸いです。

### 1.1. セットアップ プログラムについて

本書で述べる本ソフトウェアとは、FTSDK 及び Viewer アプリケーション等の関連する一連のソフトウェア群を示します。

※ FTSDK とは、本ソフトウェアが提供する API 群の総称です。

本書で述べるセットアッププログラムとは、本ソフトウェアを組み込みしたお客様プログラムがエンドユーザー先で実行される際の本ソフトウェアの振る舞いを設定するプログラムです。（以降、セットアッププログラムを本プログラムと記述します。）

主に、お客様プログラムのセットアップ時にインストーラー等から本プログラムを実行していただくユースケースを想定しています。

#### <ご注意！>

本ソフトウェアがインストールされている環境でセットアッププログラムを実行した場合、現在の設定やライセンス情報などを保持しているシステム領域がセットアッププログラムの設定内容に書き換わります。

これを回避するには、セットアッププログラムの実行前に **C:¥ProgramData¥LoggingFt** フォルダをバックアップしてください。

万が一、意図せずセットアッププログラムの設定内容に書き換わってしまった場合には、再度インストーラーを実行することで修復可能です。

### 1.2. セットアップ解除 プログラムについて

本書で述べるセットアップ解除(アンセットアップ)プログラムとは、セットアッププログラム又は本ソフトウェアが構築したシステム領域を削除するプログラムです。

主に、お客様プログラムのアンインストール時にアンインストーラー等から本プログラムを実行していただくユースケースを想定しています。



---

## 1.3. 使用上のご注意・免責事項

---

- ・ 個人情報や機密情報などの秘匿性の高い情報は本ソフトウェアで出力しないようにしてください。
- ・ 医療、金融系システムといった高い信頼性が求められるシステム下では使用しないでください。
- ・ 万が一、本ソフトウェアを使用したことにより生じたいかなる障害・損害につきましても、作者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 本ソフトウェアを導入するにあたり、本ソフトウェアが提供している無償版及び試用版を使用してご検討いただき、お客様の責任において導入してください。
- ・ 本ソフトウェアにバグ及び不具合が見つかった場合、作者は改善する努力はしますが義務は負わないものとします。

---

## 1.4. 著作権及び使用許諾条項

---

本ソフトウェアを使用するにあたり、以下の条項に同意したものとみなされます。

- ・ 本書及び本ソフトウェアの著作権は作者 Quantyworks Software に帰属します。本書及び本ソフトウェアを作者に無断で転載、複製、改変、配布、販売などを行うことを禁止します。
- ・ お客様は、本ソフトウェアが提供する機能を正しく動作させる目的においてのみ本ソフトウェアを使用することができます。
- ・ 本ソフトウェアをお客様のプログラムに組み込み、かつ本ソフトウェアの機能が正常に動作する状態において、お客様のプログラムと共に複製及び再配布をすることができます。
- ・ お客様は、組み込み先となるお客様のプログラムが商用利用・非商用利用を問わず前述の使用条件下において本ソフトウェアを使用することができます。

---

## 1.5. 動作環境

---

OS: Windows10(64 ビット)、Windows11(64ビット)

CPU: Intel 第4世代以降又は互換 CPU (推奨)

RAM: 4GB 以上 (推奨)

ストレージ: 32MB 以上の空き容量




## 2. セットアップ

セットアップには、下記2通りの方法があります。

本章では、これらセットアップ方法について説明します。

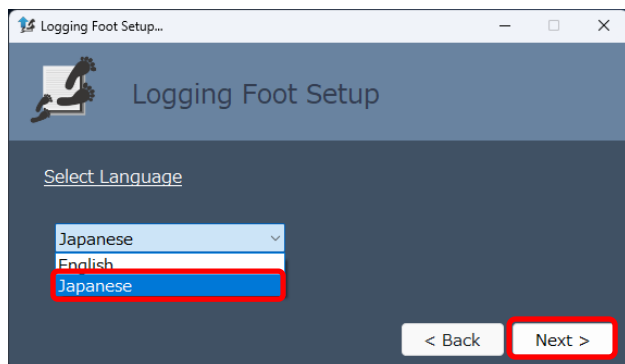
- GUI を起動してセットアップする
- 他のプログラムからコマンド起動してセットアップする(サイレントセットアップ)

### 2.1. GUI 起動してセットアップする

Logging Foot Setup プログラムアイコン  をダブルクリックすることにより本プログラムの GUI が起動します。本プログラムは管理者での実行が必要になるため、デフォルトの UAC(ユーザーアカウント制御)設定の場合、下図ダイアログが表示されます。セットアップを継続するには [はい] ボタンを押下します。



GUI が起動します。言語を選択(英語・日本語)してから [Next(次へ)] ボタンを押下します。





下図、セットアップモード選択画面が表示されます。

GUI によるセットアップでは、下図に示すモードが選択できます。以降の小節では、各セットアップモードを解説します。



## 2.1.1. セットアップファイルを使用

セットアップファイルを使用するとマニュアルセットアップと比べ、より多くの項目を設定できます。エンドユーザー先でのセットアップに向いています。

また、マニュアルセットアップと比べ、より多くの項目を設定できます。

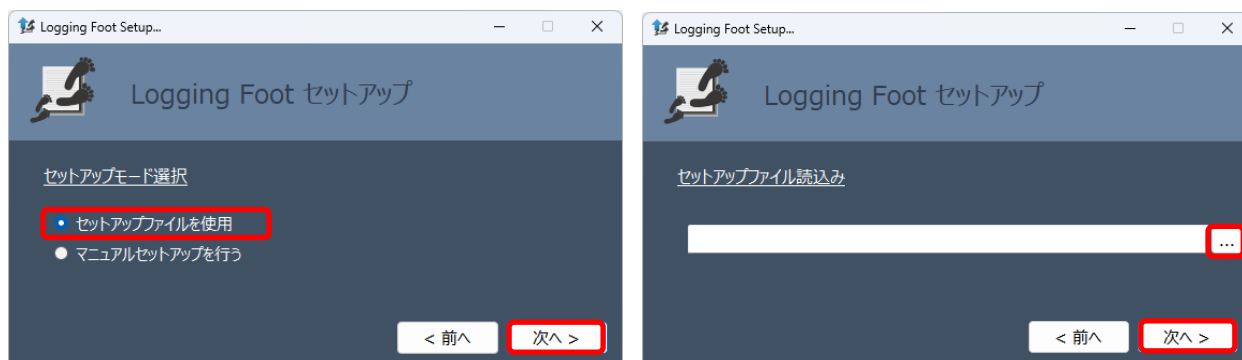
※()内の章番号は別紙「Viewer アプリケーション操作マニュアル」のものです。

設定項目	セットアップファイル	マニュアルセットアップ
表言語設定(2.11)	○	--
カラーフィルタ 条件設定(2.13.3)	○	--
カラーフィルタ カラム間一致条件設定(2.13.2)	○	--
カラーフィルタ 区切り記号設定(2.13.2)	○	--
ビジビリティフィルタ 条件設定(2.12.3)	○	--
ビジビリティフィルタ カラム間一致設定(2.12.2)	○	--
ビジビリティフィルタ 区切り記号設定(2.12.2)	○	--
ロギングファイル アーカイブ設定(2.14.2.2)	○	○
ロギングファイル カレント設定(2.14.2.1)	○	○
エンコード設定(2.14.2.3)	○	○
接続設定(2.14.3.2)	○	○
内部イベントログ設定(2.14.3.3)	○	○
クライアントトリガー起動設定(2.14.4.1)	○	○
認証済みライセンスファイル設定(2.14.4.3)	○	○
任意カテゴリ登録設定(2.15)	○	--



## 2.1.1.1. セットアップファイルの読み込み

下図、[セットアップファイルを使用] オプションを選択し、[次へ] ボタンを押下するとセットアップファイル読み込み画面が表示されます。



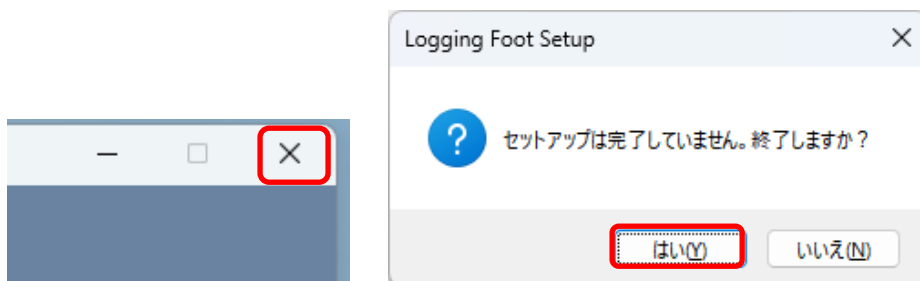
[...] ボタンを押下するとセットアップファイル読み込みダイアログが表示されますのでセットアップファイル (\*.setup) を選択します。ファイルを選択したら [次へ] ボタンを押下します。

※ セットアップファイルは、あらかじめ Logging Foot Viewer アプリケーションのオプション設定画面から出力しておきます。

(詳細は別ドキュメント [Viewer アプリケーション操作ガイド 2.14.4. 一般設定オプション設定] の項目をご覧ください)

## 2.1.1.2. セットアップを途中でキャンセルする

2.1.1.4 セットアップの開始 画面にて、[次へ] ボタンを押下しない限りは、各画面の右上[x] ボタンを押下することにより下図確認ダイアログが表示されますので [はい] を押下することによりセットアップをキャンセルすることができます。







## 2.1.1.3. セットアップファイルの内容確認

下図、セットアップファイルの記載内容が表示されます。

この画面では設定の変更・編集はできません。確認のみになります。

[次へ] ボタンを押下します。

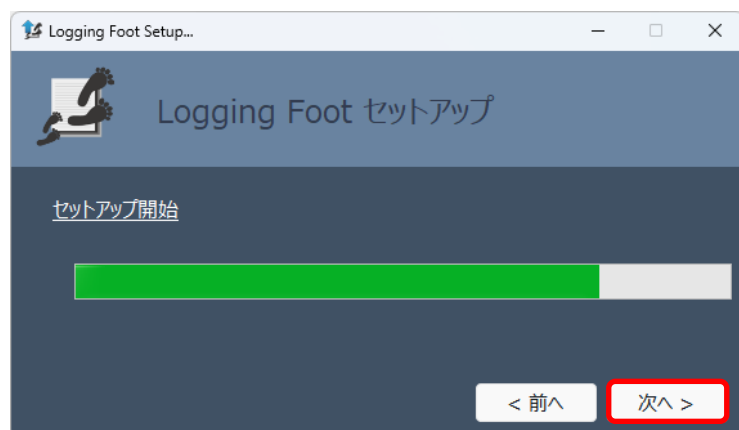
## 2.1.1.4. セットアップの開始

下図、[次へ] ボタンを押下するとセットアップが開始されます。

以降、途中キャンセルはできなくなります。



セットアップ進行中は下図画面が表示されます。



セットアップが完了すると下図画面が表示されます。

画面右上 [x] ボタン又は [閉じる] ボタンを押下するとセットアップは終了となります。

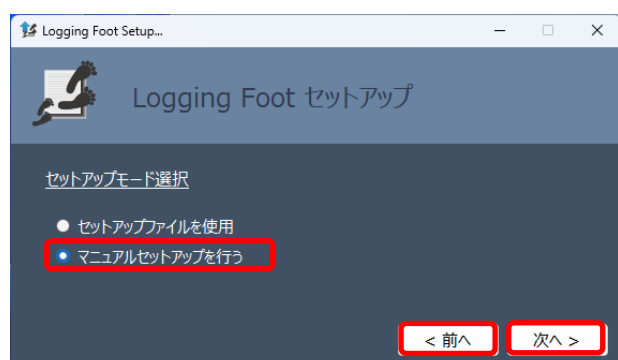


## 2.1.2. マニュアルセットアップを行う

マニュアルセットアップは、本プログラムの GUI 上で本ソフトウェアの振る舞い・設定をセットアップする機能です。

言語選択画面で[次へ] ボタンを押下すると下図セットアップモード選択画面が表示されます。

[マニュアルセットアップを行う] オプションを選択し、[次へ] ボタンを押下するとロギングファイル及びエンコードに関する設定画面が表示されます。





## ロギングファイル及びエンコードに関する設定画面

Logging Foot Setup...

Logging Foot セットアップ

ロギングファイル アーカイブ設定

アーカイブ化ファイルサイズ (1KB - 256MB)

2 MB

ファイル名 (拡張子は除く)

ArchiveLog\_

ファイルパス

C:¥ProgramData¥LoggingFt¥viewer¥log¥

...

ロギングファイル カレント設定

ファイル名 (拡張子は除く)

CurrentLog

ファイルパス

C:¥ProgramData¥LoggingFt¥viewer¥log¥

...

エンコード設定

書き込み時のエンコード

OS 標準

▼

読み込み時のエンコード

OS 標準

▼

< 前へ

次へ >



## 2.1.2.1. ロギングファイル アーカイブ設定

ロギングファイルのアーカイブ化設定、アーカイブ化ファイルの出力先設定を行います。

### ロギングファイル アーカイブ設定

GUI	説明
アーカイブ化ファイルサイズ 入力ボックス	カレントファイルがアーカイブファイルへ移行するファイルサイズを入力します。 設定可能範囲は 1KB ~ 256MB です。
アーカイブ化ファイルサイズ 単位選択ドロップダウン	カレントファイルがアーカイブファイルへ移行するファイルサイズの単位を選択します。 選択可能な単位は KB、MB です。
ファイル名入力ボックス	アーカイブファイルのファイル名を入力します。 アーカイブファイルは、ファイル名の後ろに移行した年月日-時分-マイクロ秒(6桁)が自動で付与されます 例) ArchiveLog_20240212-112023-386146.csv
ファイルパス入力ボックス	アーカイブファイルを保存する場所を入力します。 通常は、ファイルパス選択ダイアログから選択して設定するようにしてください。 また、デフォルトの C:¥ProgramData¥～ は隠しフォルダになっています。表示されていない場合はフォルダの表示設定を変更してください。
ファイルパス選択ダイアログ開くボタン	[...] で表示されるボタンを押下すると ファイルパスの選択ダイアログが表示されます。



## 2.1.2.2. ロギングファイル カレント設定

クライアントプロセスから出力されたログは常にカレントファイルとして保存されます。  
ロギングファイル カレント設定では、これらファイルの出力先を設定します。

The screenshot shows the 'Logging Foot セットアップ' (Logging Foot Setup) window. The 'ロギングファイル アーカイブ設定' (Logging File Archive Settings) section is visible at the top, with 'アーカイブ化ファイルサイズ (1KB - 256MB)' set to '2 MB', 'ファイル名 (拡張子は除く)' set to 'ArchiveLog\_', and 'ファイルパス' set to 'C:¥ProgramData¥LoggingFt¥viewer¥log¥'. Below this, the 'ロギングファイル カレント設定' (Logging File Current Settings) section is highlighted with a red box. It contains 'ファイル名 (拡張子は除く)' set to 'CurrentLog' and 'ファイルパス' set to 'C:¥ProgramData¥LoggingFt¥viewer¥log¥'. At the bottom, the 'エンコード設定' (Encoding Settings) section shows '書き込み時のエンコード' and '読み込み時のエンコード' both set to 'OS 標準'. Navigation buttons '< 前へ' and '次へ >' are at the bottom right.

### ロギングファイル カレント設定

GUI	説明
ファイル名入力ボックス	カレントファイルのファイル名を入力します。 入力するファイル名の拡張子は不要です。
ファイルパス入力ボックス	カレントファイルを保存する場所を入力します。 通常は、ファイルパス選択ダイアログから選択して設定するようにしてください。 また、デフォルトの C:¥ProgramData¥～ は隠しフォルダになっています。表示されていない場合はフォルダの表示設定を変更してください。
ファイルパス選択ダイアログ開くボタン	[...] で表示されるボタンを押下すると ファイルパスの選択ダイアログが表示されます。



## 2.1.2.3. エンコード設定

クライアントプロセスから出力されたログがカレントファイルとして保存される時のエンコード及び CSV 形式ロギングファイルを読み込む時のエンコードを設定します。

設定が終わったら[次へ]ボタンを押下します。

The screenshot shows the 'Logging Foot セットアップ' (Logging Foot Setup) window. It has two main sections: 'ロギングファイル アーカイブ設定' (Logging File Archive Settings) and 'ロギングファイル カレント設定' (Logging File Current Settings). The 'エンコード設定' (Encoding Settings) section is highlighted with a red box. It contains two dropdown menus: '書き込み時のエンコード' (Encoding at write time) and '読み込み時のエンコード' (Encoding at load time), both set to 'OS 標準' (OS Standard). At the bottom right, there are two buttons: '< 前へ' (Previous) and '次へ >' (Next), with the 'Next' button highlighted by a red box.

### エンコード設定

GUI	説明
書き込み時のエンコード	クライアントプロセスから出力されたログがカレントファイルに保存される時のエンコーディングを選択します。 選択可能なエンコードはそれぞれ OS standard、UTF-8、UNICODE です。 OS standard は日本語 OS の場合、通常は Shift-JIS が自動で選択されます。
読み込み時のエンコード	CSV 形式のロギングファイルを読み込む時のエンコーディングを選択します。 選択可能なエンコードはそ上記書き込み時のエンコードと同様です。



## 2.1.2.4. 接続設定

ロギングファイル及びエンコードに関する設定画面の[次へ] ボタンを押下すると

下図、接続設定及び内部イベントログ設定画面が表示されます。

本ソフトウェアは、サーバープロセス及びクライアントプロセスとの間でソケット通信を行います。

本項目では、接続ポート番号を設定します。

### 接続設定

GUI	説明
接続ポート番号入力ボックス	クライアントプロセスとの通信ポート番号を設定します。 クライアントプロセスがロギングを開始する際に呼び出しする API のポート番号には本項目の番号を設定する必要があります。 また、本項目はお客様の環境にて他のアプリケーションが使用するポート番号と被る場合のみ変更を検討してください。 推奨するポート番号は49152～65535です。



## 2.1.2.5. 内部イベントログ設定

本項目は、クライアントプロセスとの通信確立状態等、Viewer アプリケーションの内部イベントを表示又はファイル出力の設定を行います。

これら内部イベントを表示したりファイル出力したりすることは、万が一クライアントプロセスとの接続が正常に完了しなかった場合などの問題解決に役立ちます。

内部イベントはカテゴリ及び重要度のカラムに `_LOG_` や `_INFO_` のように前後にアンダースコアで挟まれた文字列で表示されます。

設定が終わったら[次へ]ボタンを押下します。

### 内部イベントログ設定

GUI	説明
ロギングビュー表示 有効	チェックを ON にすると内部イベントがロギングビューに表示されるようになります。
ファイル出力 有効	チェックを ON にすると内部イベントがロギングファイルに出力されるようになります。





## 2.1.2.6. クライアントトリガー起動設定

本項目は、お客様のプログラムから Viewer アプリケーションを起動する(クライアントトリガー起動)場合の振る舞いを設定します。

The screenshot shows the 'Logging Foot セットアップ' (Logging Foot Setup) window. The 'クライアントトリガー起動設定' (Client Trigger Start Settings) section is highlighted with a red box. It contains the following settings:

設定項目	設定値
ウィンドウ状態	タスクトレイに隠す
ウィンドウ最前面表示	標準
複数起動許可	不許可
ウィンドウ操作ロック	あり
解除パスワード	*****

Below this section is the '認証済みライセンスファイル' (Validated License File) section, which includes a text input field and a file selection button (...).

At the bottom of the window are two buttons: '< 前へ' (Previous) and '次へ >' (Next).

### クライアントトリガー起動

GUI	説明
ウィンドウ状態	本アプリケーションが起動した時のウィンドウ状態を設定します。
ウィンドウ最前面表示	本アプリケーションのウィンドウを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
複数起動許可	クライアントトリガー起動した本アプリケーションが存在している時、複数起動を許可するかどうかを設定します。
ウィンドウ操作ロック	本アプリケーションのウィンドウを操作可能にするかどうかを設定します。
解除パスワード入力ボックス	ウィンドウ操作ロックを解除するためのパスワードを設定します。この項目はウィンドウ操作ロックが「あり」設定の場合に表示されます。



## 2.1.2.7. 認証済みライセンスファイル

認証済みライセンスファイルは、あらかじめ、Viewer アプリケーションのオプション設定項目から出力しておきます。

(※ 詳細は [Viewer アプリケーション操作ガイド 2.14.4.3 認証済みライセンスファイル])

本項目で認証済みライセンスファイルを選択しないと、[次へ]ボタンを押下しても次の設定画面に進めません。

設定が終わったら[次へ]ボタンを押下します。

### 認証済みライセンスファイル

GUI	説明
認証済みライセンスファイルを選択	[...] で表示されるボタンを押下するとファイル選択ダイアログが表示されます。



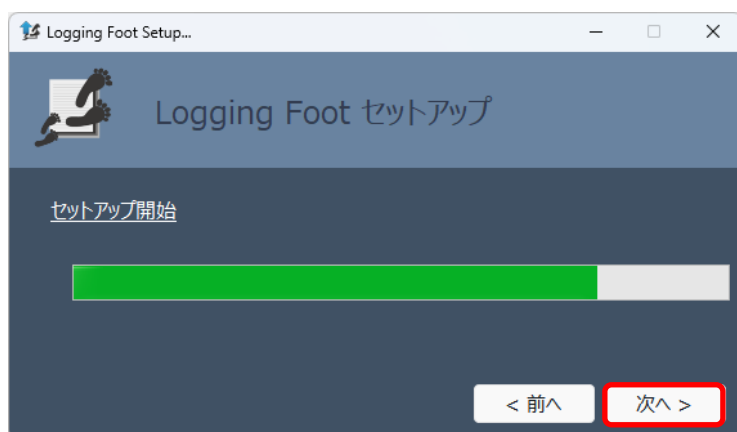
## 2.1.2.8. セットアップの開始

下図、[次へ] ボタンを押下するとセットアップが開始されます。

以降、途中キャンセルはできなくなります。



セットアップ進行中は下図画面が表示されます。



セットアップが完了すると下図画面が表示されます。

画面右上 [x] ボタン又は [閉じる] ボタンを押下するとセットアップは終了となります。





## 2.2. 他のプログラムから起動してセットアップする

本プログラムは、他のプログラム、インストーラー、CUI、バッチプログラム等からコマンド起動することができます。GUI が表示されないことからサイレントセットアップとも呼ばれます。

起動するには、下記の書式で指定します。

### ft\_setup.exe “セットアップファイル名”

セットアッププログラム名の後ろにスペースを入れてセットアップファイル名を指定します。

※ セットアップファイル名は、絶対パスファイル名又はセットアッププログラムからの相対パスファイル名である必要があります。

※ セットアップファイルは、あらかじめ Logging Foot Viewer アプリケーションのオプション設定画面から出力しておきます。

(詳細は別ドキュメント [Viewer アプリケーション操作ガイド 2.14.4. 一般設定オプション設定]の項目をご覧ください)

### 2.2.1. 他のプログラムから起動する例

例としてバッチプログラムから起動する方法を示します。

下記コードを入力したら拡張子 .bat を付けて保存します。

セットアッププログラム ft\_setup.exe と同じ階層のフォルダの中にセットアップファイル ft\_mysetupparam\_en.setup が配置されていることを想定しています。

セットアッププログラム ft\_setup.exe は標準で下記のインストールフォルダに存在します。

C:\Program Files\LoggingFoot\ftsetup\

```
@echo off
echo Setup starting...
ft_setup.exe ".\ft_mysetupparam_en.setup"

echo ExitCode= %errorlevel%

rem Please input any key..
pause
```

本プログラムは管理者での実行が必要になるため、一般ユーザーとして実行すると通常、

[2.1 GUI 起動してセットアップする](#) で示すユーザーアカウント制御ダイアログが表示されます。

これを回避するには、本プログラムを起動するプログラムをあらかじめ管理者で実行する必要があります。



## 2.2.2. リターンコード一覧

本プログラムをコマンド起動した場合、呼び出し元に標準出力でリターンコードが返されます。

リターンコード	説明
0	正常終了
1	引数不正エラー
2	セットアップファイルが見つからない
17	通信接続設定読取りエラー
18	ロギングファイル設定読取りエラー
19	内部ログ設定読取りエラー
20	オプション設定読取りエラー
21	認証済みライセンスファイル読取りエラー
25	セットアップファイル読取りエラー
32	認証済みライセンスファイルセットアップエラー
33	通信接続設定セットアップエラー
34	ロギングファイル設定セットアップエラー
35	内部ログ設定セットアップエラー
36	オプション設定セットアップエラー
37	ライセンス情報設定セットアップエラー
48	ファイアウォール設定セットアップエラー




## 3. セットアップの解除

アンセットアップ(セットアップの解除)には下記の2通りの方法があります。

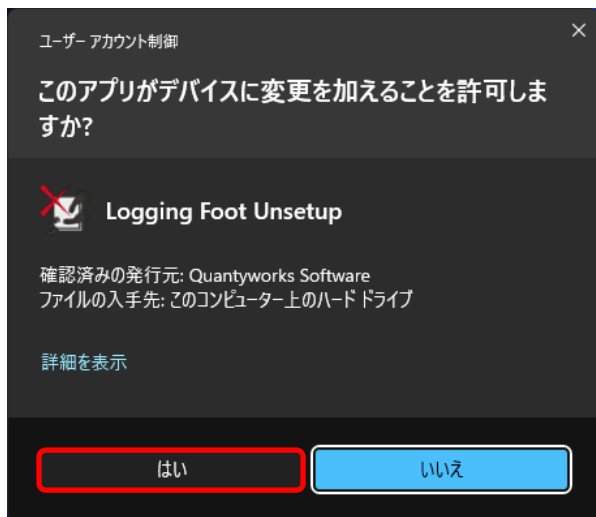
本章では、これらアンセットアップ方法について説明します。

- GUI を起動してアンセットアップする
- 他のプログラムからコマンド起動してセットアップ解除する(サイレントアンセットアップ)

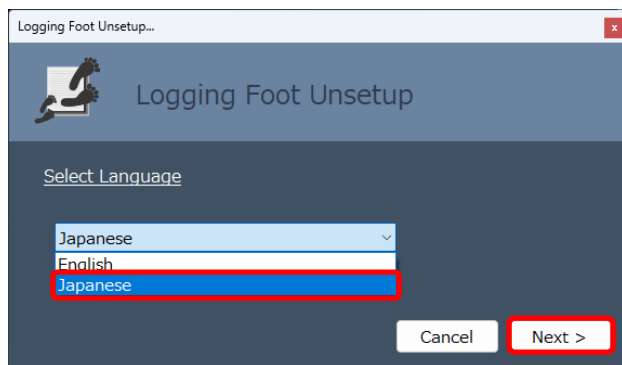
### 3.1. GUI 起動してセットアップ解除する

Logging Foot Unsetup プログラムアイコン  をダブルクリックすることにより本プログラムの GUI が起動します。本プログラムは管理者での実行が必要になるため、デフォルトの UAC(ユーザーアカウント制御)設定の場合、下図ダイアログが表示されます。

セットアップを継続するには [はい] ボタンを押下します。



GUI が起動します。言語を選択(英語・日本語)してから [Next(次へ)] ボタンを押下します。





## Logging Foot Setup guide

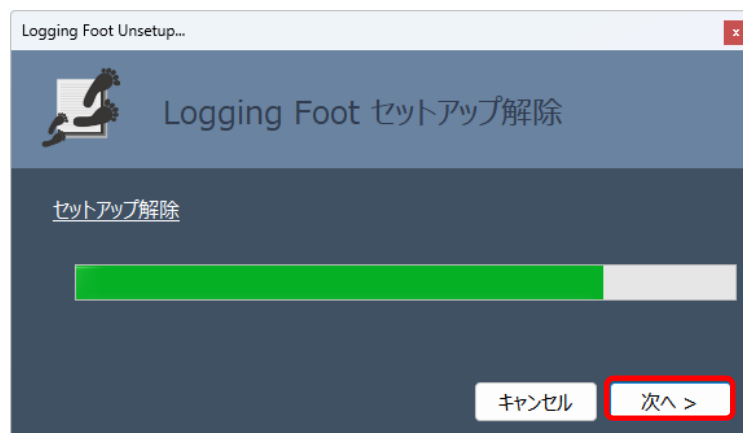
下図画面にて、[次へ] ボタンを押下するとセットアップ解除が開始されます。

以降は、キャンセルできなくなりますのでご注意ください。

C:\ProgramData\LoggingFt\ のフォルダが削除されます。ログファイルの出力先に設定している場合はバックアップを取るなどの対策を講じてください。



セットアップ解除の進行中は下図画面が表示されます。



セットアップ解除が完了すると下図画面が表示されます。

画面右上 [x] ボタン又は [閉じる] ボタンを押下するとセットアップ解除は終了となります。





## 3.2. 他のプログラムから起動してセットアップを解除する

本プログラムは、他のプログラム、インストーラー、CUI、バッチプログラム等からコマンド起動することができます。GUI が表示されないことからサイレントアンセットアップとも呼ばれます。

起動するには、下記の書式で指定します。

**ft\_unsetup.exe “/s”**

アンセットアッププログラム名の後ろにスペースを入れて /s を指定します。

(大文字小文字は区別しません。)

### 3.2.1. 他のプログラムから起動する例

例としてバッチプログラムから起動する方法を示します。

下記コードを入力したら拡張子 .bat を付けて保存します。

アンセットアッププログラム ft\_unsetup.exe は標準で下記のインストールフォルダに存在します。

C:¥Program Files¥LoggingFoot¥ftsetup¥

```
@echo off
echo Unsetup starting...
ft_unsetup.exe "/s"

echo ExitCode= %errorlevel%

rem Please input any key..
pause
```

本プログラムは管理者での実行が必要になるため、一般ユーザーとして実行すると通常、

[3.1 GUI 起動してセットアップ解除する](#) で示すユーザーアカウント制御ダイアログが表示されます。

これを回避するには、本プログラムを起動するプログラムをあらかじめ管理者で実行する必要があります。

### 3.2.2. リターンコード一覧

本プログラムをコマンド起動した場合、呼び出し元に標準出力でリターンコードが返されます。

リターンコード	説明
0	正常終了
1	引数不正エラー





## 4.エンドユーザーへの再頒布

エンドユーザー先でロギングを実行できるようにするには、本セットアッププログラムとロギングに必要な関連モジュールをお客様のプログラムと共に配布する必要があります。

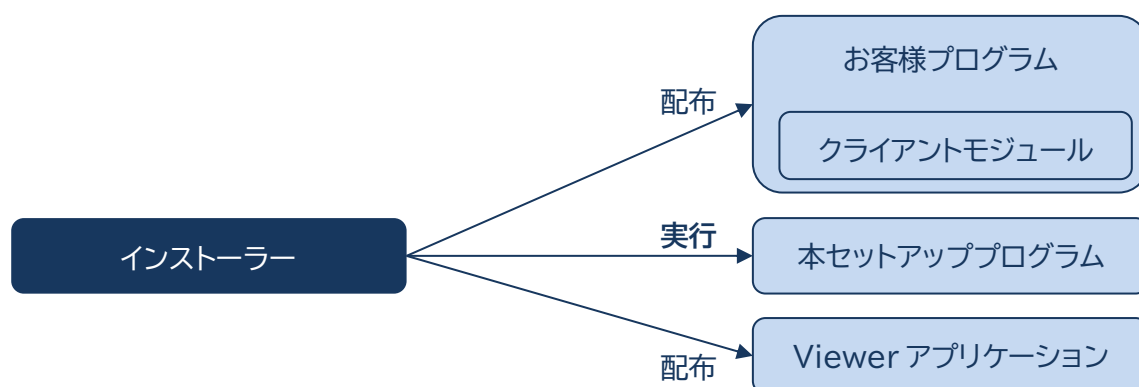
### 4.1. エンドユーザー先に配布する手順

お客様のプログラムをインストーラー等で配布する場合を例に説明します。

#### 4.1.1. インストーラー

下図に示すように、お客様プログラム及び Viewer アプリケーションは配布、本セットアッププログラムは実行されるようにインストーラーを構成します。

クライアントモジュールについては、お客様プログラムと同じフォルダに配布されるように構成します。Viewer アプリケーションは、[4.2.1](#) に示すモジュール一式を任意の配布先に配布されるように構成します。



#### 4.1.2. アンインストーラー

下図に示すように、本セットアップ解除プログラムが実行されるようにアンインストーラーを構成します。





## 4.2. エンドユーザー先に配布が必要なモジュール

エンドユーザー先には、以降の [4.2.1～4.2.4](#) に示す下記モジュール群の配布が必要になります。

### 4.2.1. Viewer アプリケーション

下記の構成でインストーラー等のセットアップから配布されるように設定します。

配布先は任意です。

ファイル名	説明
ft_viewer.exe	Viewer アプリケーションです。
ft_viewer.exe.config	Viewer アプリケーションの設定ファイルです。
ft_svr.dll	Logging Foot サーバーモジュールです。
lic_enc.dll	Viewer アプリケーションの依存モジュールです。
Microsoft.WindowsAPICodePack.dll	Viewer アプリケーションの依存モジュールです。
Microsoft.WindowsAPICodePack.Shell.dll	Viewer アプリケーションの依存モジュールです。
ja-JP¥ft_viewr.resources.dll	Viewer アプリケーションの依存モジュールです。
help¥LoggingFoot_Man-JP.pdf	Viewer アプリケーションのヘルプファイルです。
help¥LoggingFoot_Man-EN.pdf	Viewer アプリケーションのヘルプファイルです。

### 4.2.2. セットアッププログラム

下記の構成でインストーラー等のセットアップから実行されるように設定します。

配布は任意です。

ファイル名	説明
ft_setup.exe	本セットアッププログラムです。
ft_setup.exe.config	本セットアッププログラムの設定ファイルです。
ファイル名.setup	セットアップファイルを使用する場合は、ここに含めてください。ファイル名は任意です。



## 4.2.3. セットアップ解除プログラム

---

下記の構成でアンインストーラー等から実行されるように構成します。

配布は任意です。

ファイル名	説明
ft_unsetup.exe	本セットアップを解除するプログラムです。
ft_unsetup.exe.config	本セットアップを解除するプログラムの設定ファイルです。

## 4.2.4. クライアントモジュール

---

本ソフトウェアを組込んだお客様プログラムと同じフォルダに配置されるように構成してください。

ファイル名	説明
ft_cli.dll	Logging Foot クライアントモジュールです。

## 4.3. インストーラーサンプルについて

---

下記、インストール先にインストーラーサンプルを収録しています。

**C:¥Program Files¥Logging Foot¥ftsetup¥SetupSample**

本サンプルは、Sample\_StartupServer がエンドユーザー先で実行され、ロギングを行うことを想定したものです。Sample\_StartupServer アプリが起動すると Viewer アプリケーションが起動してロギングが開始されます。

### 4.3.1. <重要>インストーラーサンプルの注意事項

---

本ソフトウェアがインストールされている環境で本インストーラーサンプルを実行した場合、現在の設定やライセンス情報などを保持しているシステム領域が本インストーラーサンプルの設定内容に書き換わります。

これを回避するには、本インストーラーサンプルの実行前に **C:¥ProgramData¥LoggingFt** フォルダをバックアップしてください。

万が一、意図せずセットアッププログラムの設定内容に書き換わってしまった場合には、再度インストーラーを実行することで修復可能です。



## 4.3.2. インストーラーサンプルの開発環境

本インストーラーサンプルは、SetupSample フォルダを C ドライブ直下(C:¥)にコピーしてから Visual Studio 2022 Setup Project を起動してください。

サンプルの開発環境及びインストーラー形式は下記のとおりです。

開発環境	Visual Studio 2022 Setup Project (Setup Project は個別にインストールの必要場合があります。)
ビルド成果物	SetupSample¥ReleaseEn¥SetupSample.msi(英語版インストーラー) SetupSample¥ReleaseJa¥SetupSample.msi(日本語版インストーラー)

本書では、Visual Studio Setup Project に関する使用方法については割愛します。

## 4.3.3. インストーラーサンプルの使用方法

- (1) ビルド成果物フォルダの SetupSample.msi を実行してインストールを開始します。
- (2) 標準で C:¥Program Files¥MyCompany インストールされます。  
デスクトップアイコン「Sample\_StartupServer」をダブルクリックして起動します。
- (3) サンプルプログラムが起動すると Viewer アプリケーションも起動します。  
ロギングは既に開始されていますのでメッセージ送信や Window state を変更したりして動作を確認してみてください。

Sample\_StartupServer

Server Program Startup Settings

Server name: localhost Port number: 50500

Server path: C:¥Program Files¥MyCompany¥ftviewer¥ft\_viewer.exe

Call API: FTCORE\_StartTriggerWithParam

Window state: SHOW\_WINDOW\_NORMALY

Topmost: STATE\_FALSE

API Result: FTCORE\_SUCCESS

Exit Startup

Logging Message Output

Category: NON Random

Severity: NON Random

Message:

Send



## Logging Foot Setup guide

(4) 終了するにはサンプルプログラムのウィンドウ右上 X ボタンを押下します。

Viewer アプリケーションも同時に終了します。

(5) アンインストールするには、Windows メニュー「インストールされているアプリ」を起動して「SetupSample」をアンインストールしてください。

